

1	会議名	交流・文化施設等整備検討委員会
2	日時	平成21年6月25日(木) 午後3時から5時5分まで
3	会場	上田商工会議所 4階議員会議室
4	出席者	日端委員長、龍野副委員長、成沢委員、山浦委員、山崎委員、関口委員、小池委員、西澤委員、浦委員、竹花委員、山岸委員、小川委員、田中委員、清住委員、桜井委員、竹内委員、宮下委員、宮本委員、【欠席委員】土本委員、美山委員、伊藤委員、森委員、寺島委員、岡村委員、柄沢委員、
5	市側出席者	母袋市長、大澤政策企画局長、小市教育次長、宮川政策企画課長、中部文化振興課長、中山公園緑地課長、伊藤交流・文化施設建設準備室長、近藤政策企画担当係長、若林建築課建築担当係長、嶋尾都市計画課調査計画担当係長、室賀交流・文化施設準備係長、徳田主査、
6	公開・非公開等の別	公開・一部公開・非公開
7	傍聴者3人	記者4人
8	会議概要作成年月日	平成21年6月26日
協議事項等		
1	開会(大澤政策企画局長)	
2	委嘱式	事務局：今回から2名の委員に変更がある。石川・塚田委員の各後任に小池秀彦・寺島秀則委員。寺島委員においては本日所用により欠席のため、市長から小池委員に委嘱する。(人事通知書交付) 小池委員あいさつ ：前任の石川に代わり、東信中学校吹奏楽連盟理事長の立場から本日より仲間に加えていただいた。微力ではあるがよろしく願いたい。
3	市長あいさつ	：新たな2人の委員を含め、引続きよろしく願いたい。市では中間報告を受けた後、市民公聴会やパブリックコメント、また出前講座などを行った。公聴会では市の財政シミュレーションも示し、様々な意見や質問をいただく中で、上田地域の文化レベルは非常に高いがそれを表す拠点が十分でないという事、また今後は地域の子どもの未来のため、まちづくりや地域活性化のためにも文化・芸術振興にもっと予算を充てていきたいと申し上げた。公聴会等で市民の皆さんからは、財政的に可能な範囲という前提で、整備に向けての夢や期待、具体的な要望や希望をお聞きした。市としては、現状で反対意見をほとんど聞かない中で、施設整備に対して概ね理解をいただいているものと感じている。今後は中間報告を基に、最終報告に向け更に具体的な検討を進められたい。また施設の理念や目標、事業の展開や組織体制作りについても早期から準備を始める必要がある。開会中の議会では3人の議員から質問があり、1人は多くの市民の状況から賛成と言う意見、2人目は今は作る時期ではないとの意見、3人目は今後の市民合意が重要との意見。市として秋季に策定を予定している整備基本計画は改めて市民の皆さんに示し、財政面にも配慮した上で、文化芸術への取組みなどを一緒に考え着実に前進を図っていく。忙しい日程となるが「活気に溢れ、都市の魅力や風格が漂い、文化の薫るまち上田」のため協力をお願いする。
4	副委員長あいさつ(交通事情により委員長の到着が遅れたため)	副委員長：市民の皆さんの意見をまとめ、最終報告につなげるため、引続きよろしく願いたい。 事務局：ありがとうございました。市長は公務によりこれで失礼します(市長退席)。
5	議事	(1) 市民公聴会及びパブリックコメント等の実施報告について (2) 最終報告に向けての課題等の整理について 事務局：(事前資料・資料1説明、途中委員長到着) 委員長：今回の市民参加の経過を受け、中間報告を最終報告にまとめていく。資料1右側のゴシック体

部分が今後検討すべき項目と理解しているが、資料 2 によると日程が非常に限られており、日程の是非も含めて意見をいただきたい。議事の前に事務局から資料 2 について説明を受けたい。

事務局：(資料 2 説明)

委員長：資料 1・2 について意見をいただきたい。

委員：まず膨大な資料の作成に敬意を表したい。公聴会はほぼ全て参加したが、市が市民意見に耳を傾ける姿を見て、委員としてがんばらなければと思った。開催回数も人口規模としては多いという意見も聞いた。確認したいことは、最終報告をどの程度のものとすべきかということ。中間報告に少し加味した程度のものなのか、もっと具体的なものなのか。

事務局：私達も始めての取組みであり難形があるわけではない。委員と共にこれまで作り上げてきたものと感じている。中間報告に対する様々な意見から検討課題を整理したため、これを議論され、中間報告に追加・修正を加えられたい。具体的には、例えば大小ホールの規模・機能によって施設全体の面積・建設費・運営管理費が変わるため、これを焦点に取組むことで最終報告が見えてくると考える。基本理念や目標、考え方については、賛同いただいているものと考えている。

委員：美術館に関し、私が所属する団体には具体的な構想があり、参考になるのであれば提案したい。また、どのような美術館なのか分かりにくいので、何を指し、何を行うのか示したい。面積の精査についても、模型を作るなど極めて具体的な検討をしており、資料の展示や企画展の内容についても 2 年間程度の計画案を作っている。建物を別棟にすべきという意見もあるが、これについても、経費面など様々な検討の中で、一つの建物とすべきと考えてきているため、それらを理解していただきたい。それから企画展示室、常設展示室、市民ギャラリー、アトリエなどの配置についても、効率性や、どうすれば目的が達成されるかなど、あらゆる角度から検討しているため、私たちの構想が役に立てばと思う。

委員長：最終報告のまとめ方は私達が決めれば良い。ただ私が思う事は、中間報告はほぼ完成度の高い状態で市民にお示ししたということ。したがって微調整、微修正は良いが、大幅に書き変えるということは有り得ないと思う。ただし、ぜひ追加すべきことがあれば、無理に本文に入れなくても、付録や追加検討資料を加えた形の最終報告もあると思う。美術館について、委員会全体で内容が共有できていないものを、これから 2 か月で検討するのは難しい。ホールについても同様の事が言え、どんな理念のホールなのか、そこまでは踏み込めてはいない。最終報告後の設計段階でまた新しい知恵が入り、その時には面積も 1~2 割は変わるかも知れない。そこまで私達は拘束できないが、最終報告が基になることは間違いない。全体に対してあまり踏み込んで精査を始めると物理的に不可能ではないか。せっかく検討されたものがあれば、次の合同会議や課題検討会で一度出していただき、専門家を入れて議論すべきではないか。

委員：私の周りには「中間報告の内容はほぼそのとおり最終報告になる、それが行政の手法」という方が複数いる。しかし私は、もちろん大幅に変わるようなことは無理だが、これだけの意見を集めた以上、必要なことは絶対に反映されるべきだと、それが上田市だと申し上げた。それから、ホール関係では小ホールのあり方がキーポイントになると思う。資料説明にもあったが、機能や質の面でも高い小ホールを多くの市民の方が要望している。座席数について要望の違いはあるが、いわゆる「箱」ではない、きちんとしたホールが必要というのは、非常に妥当な意見だと思う。大ホールの市民利用はほとんどが鑑賞や、年に数回の文化行事でステージに立つ程度で、合唱や演劇の団体、若い演奏家達は、その成果を発表する舞台は小ホールがほとんど。音楽村のホールこだまは、非常に個性的なホールで、通常の舞台設備を整えてはいないが、ここですら高い稼働率で、時期によっては非常に競争率が高い。やはり平土間ではなく、固定席の「質」が望まれていると思う。交流施設や大ホールへの影響もあるかもしれないが、これだけの要望がある以上は、平土間なのか固定席のきちんとしたものなのか、市民意見によって判断をすべきと思う。平土間の良さを無視するわけではないが、違う施設でこの部分が代替できないか、中間発表で発表した内容を前提に、私は調整範囲内でできることだと思う。小ホールについて、資料には「再検討」という言葉があったが、ぜひお願いしたい。

委員長：私もそう思った。小ホールについて、非常に多くの方が意見を出している。

委員：日程を考えると、各委員が重要な項目について資料等を使って次回発表し、それをまとめる方式でなければ最終報告まで辿り着かないのではないかと。中間報告のように、結論がつかないから、例えば大ホールは 1,500~1,700 席と、こういうことでは、市民の意見を重視したことにならない。市民の意見を参考にして、中間報告と照らし合わせながら問題点を把握し、この場でそれぞれが発表してまとめていただければスムーズにいくと思う。しかし最終的に意見の相違

があって一致できない場合があれば、止むを得ず幅を持たせた報告とするしかない。

委員長：資料等の発表というのは、今後の日程で言えば7月中旬の検討委員会ということか。

委員：専門委員会との合同会議もあるため、そこでまとめる事が出来ればと思う。

委員長：皆さんいかがですか。特にご意見がなければ…。

委員：多種多様な意見をうまくまとめていただきありがたい。概ね、施設整備については市民理解をいただいているということだが、今のように大ホールの規模や小ホールの位置づけなど、細かい所になると各委員の思いや考え方も異なるため、やはり各項目について特に意見がある場合は、専門委員も参加する中で、次回は資料等を持ち寄って発表出来れば良いと思う。

委員長：そのような機会は必要と思うが、テーマによっては事務局で検討が必要な場合がある。例えば大ホールの席数についても、1500と1700でどれだけ運営費が違うのか、事務局でデータを作成して検討を行うため、具体的なテーマがあれば早めに事務局に出していただきたい。

委員：50～100年に一度の事業という事で、数十年後に問題になるようなことがあると思う。例えば、太陽光発電についてはここ10年の技術であり、確か10年毎くらいのメンテや、状況によっては大規模な修繕や更新が必要とも聞いているため事務局でも調べておいてほしい。

委員長：低炭素社会やCO2削減に対する行動は、とにかくできることからやろうと言うのが世界的な傾向。太陽光の設備が10年先にお金がかかるから止めておこうという発想にはつながりにくい。

委員：屋上を芝生や公園にするなどはどうか。

委員長：グラウンドを土から芝生にするだけでも効果はある。様々な方法があるが、予算的に可能な範囲で行うという事。このプロジェクトでも環境配慮というのは必要な事だと思う。

委員：私達の検討の中で、建設費の問題は非常に重要。概算的なものが検討材料に出てくるのか。

委員長：市民公聴会である程度具体的なデータが出ているため、この委員会でさらに注文を出して、事務局で作成する事は可能。ただし、例えばこれまで文化振興関係の費用が歳出の1%台であったのが2%になるということが問題なのか、私達では判断しにくい内容もある。

委員：確認したいのは、この検討委員会で施設の内容などを確定した場合に、建設費がどの程度になるのかということ。詳細な数字は不可能だと思うが、私達も知っておく必要があると思う。

事務局：整備事業費と財源の精査は検討課題の一つと理解している。しかし、施設の規模や機能がある程度想定されたとしても、基本設計に近い仮設計をしなければ具体的な数値の提案は難しい。ただし、運営管理費と同様に建設費についても、他の事例などを参考にしながら、ある程度の目安はこの検討委員会でも最終報告の中で詰めていく必要があると考えており、事務局の方でも、できるだけ努力させていただき、皆さんと一緒に検討してまいりたい。

委員：丸子地域の公聴会に出たが、思っていたよりも建設費に対する意見が少なかった。合併特例債の説明があったため、そういった有利な制度を前向きに使うべきという意見が出されていた。個人的には、こうした大事業には積立金が必要であったと思うが、いずれにしても、この検討会の中で、建設費の概算を示す必要があると思う。それから、8月に最終報告をした後、コンペのような形で設計者の選定が行われると思うが、これについても私達は関与するのか。

事務局：検討委員会からの最終報告を基に市で整備基本計画を策定し、その次に設計段階へと移るものと考えている。設計者選定にはコンペやプロポーザルなど様々な手法があるが、いずれにしても最終報告と整備基本計画を基に提案をいただき、設計者選定にあたっては、選定委員会のような組織を作り、基本設計後にも様々な意見を聞くような場が必要になってくると考えている。しかし具体的な手法等については、いただいた意見を尊重しながら今後検討してまいりたい。

委員長：設計者や設計案の審査は難しい面もあると聞いている。専門委員会の津村委員はまつもと市民芸術館の設計者選定に関わっていたが、そこではイメージ図の段階で設計者を決め、設計内容に対して市民を含めた組織が使い勝手などを含めて意見し、百数十項目もの修正を行ったと聞いている。そういう方式のほか、設計条件を詳細に決めて、大手設計事務所や有名建築家に依頼する方法もあるが、著名な建築家などが設計した建物は、ある種の肖像権のようなものが発生し、設計後に設計変更を求めても難しい場合がある。どのような方法を採用かは十分に検討が必要であり、検討委員が選定に参加するのも現段階では未定。それから、市民の中には、デザインよりも機能さえしっかりしていれば良いという意見もあるが、これは少し違うと思う。やはりデザインが雰囲気や使い勝手も決め、それ抜きで機能だけ満足しているという事は文化施設としては有り得ないと思う。いずれにしても、これらの部分は私達の課題ではなく行政の方で考えることで、検討委員会の仕事は最終報告をまとめるところまでと思っている。

委員：専門委員会と検討委員会の合同会議は時期を変更できないか。

委員長：専門委員の皆さんが非常に多忙なため、それに都合を合わせている部分もある。上田で開催する必要があるため、専門委員は移動時間も考慮すると日程調整が困難となっている。

委員：合同会議ということで様々な意見が出ると思うが、私達もある程度しっかりとした意見を具体的に押さえておかなければ、いつも同じようなことを繰り返している状況がある。最終報告までに、もう1回程度検討委員会を開催することも一つの方法だと思う。それと、市で策定する整備基本計画はこの秋が日程的に限度という事か。

事務局：(頷く)

委員：だとすれば、もう1回程度検討委員会を日程に加え、具体的に数字も含めて煮詰めていきたい。

委員長：これまでも、専門委員の顔が見えない、など様々な意見が出されており、今回合同開催するわけだが、全員合わせると30名となり、そもそも検討委員25名という人数もクロスして議論できるスケールを超えているが、いずれにしても各委員から、具体的な意見を出していただき、それについて、専門委員から聞き出すというような機会にすると良いのではないか。また、今後の検討委員会には、都合の良い専門委員にも参加いただき、検討委員と専門委員とが投げ掛け合いを行えば効率が良いのではないかと思う。次回以降の日程はどのようになるか。

### (3) 今後の進め方について

事務局：8月を目途という忙しい日程であっても、検討委員会では充分議論したという過程が必要であり、この日程を基軸としながらも、柔軟に対応してまいりたい。それから、資料2では7/15の前後に課題検討会を提案しているが、今日の検討委員会での意見を踏まえ、また委員長と協議しながら、日程については、後日案内させていただきたい。現在確定している日程は7/15の16時から概ね2時間、場所は上田駅前ビルパレオ2階会議室ということでお願いしたい。

委員長：それでは、何か他にありますか。

委員：(なし)

## 6 閉会(日端委員長)

委員長：それでは第11回交流・文化施設等整備検討委員会を終了いたします。長時間ご苦勞様でした。

- \* 会議概要は原則として公開します。会議終了後、1週間以内に行政改革推進室へ提出してください
- \* 非公開及び一部非公開としたものについては、その理由を記載してください。